

3

目指す社会

くるめ生きものプランの目指す社会を描いていくよ。



1. 生きものプランの目的

生きものが姿を消して、自然から受けているめぐみがなくなれば、私たちの暮らしは成り立ちません。今、くるめにある筑後川や耳納山地などの自然をこれ以上減らさないように、守り、育てる。さらに、生活のなかで自然とふれあうことのできる、人と自然が共生するまち「自然とふれあい、自然と生きるまちくるめ」を目指します。

2. 生きものプラン長期目標年次

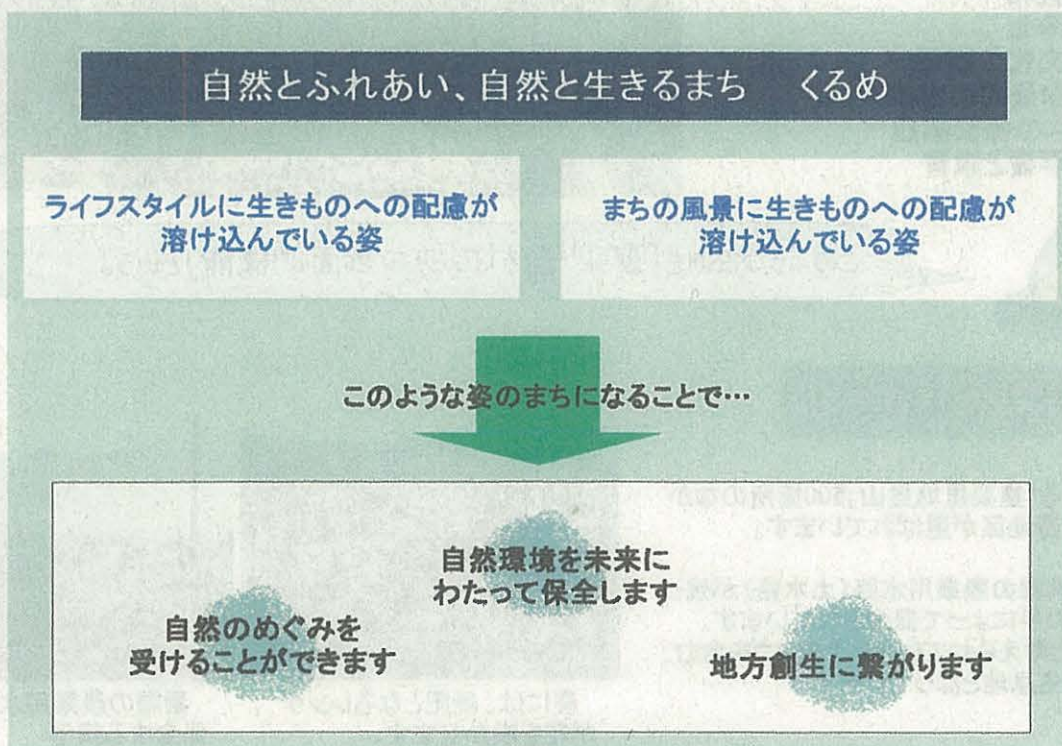
生きものプランの長期目標年次は、2050年(平成62年)とします。

これは、生物多様性の状態を現状以上に豊かなものとするとともに将来にわたって享受できる自然共生社会「自然とふれあい、自然と生きるまちくるめ」の実現のため、生物多様性国家戦略ならびに福岡県生物多様性戦略の長期目標2050年に沿うものです。

3. 自然とふれあい、自然と生きるまちくるめとは

自然とふれあい、自然と生きるまちくるめとは、生きものへの配慮が「ライフスタイル」や「まちの風景」に溶け込んでいる状況だと考えています。

そこで、自然とふれあい、自然と生きるまちくるめを「ライフスタイルに溶け込んでいる姿」と「まちの風景に溶け込んでいる姿」という2つの視点で整理しました。



4. 自然とふれあい、自然と生きるまちくるめの姿

2050年には、どのようなまちになっているのでしょうか？

自然とふれあい、自然と生きるまちくるめでは、一人ひとりが自然を守っていくことの重要性を認識し、また、公園や河川、道路などで自然に配慮した工夫がなされています。

どこで、どのような、取組みがなされているのでしょうか？

市内を【市街地】、【田園】、【山地】3つのゾーンに分け、それぞれの取組みをまとめてみました。

市街地ゾーン

公園、街路、工場、住宅等いたるところで生物多様性に配慮した緑化が行われています。まとまった緑は、生きものすみかや休憩場となり、まちなかで生きもの観察ができます。



緑のカーテン

自転車でのまちなか散策やサイクリング環境が整い、環境への負荷の低い自転車を多くの人々が利用しています。



まちなかの公園

くるめで暮らす生きものや、自然のめぐみなどの環境教育がなされており、市民の理解が進んでいます。

公園にも街路にも屋上にも工場にも緑があるんだね。うれしいな。



持続可能な漁業

環境拠点の整備

多自然工法の実施

水路やため池の環境維持

地元野菜の販売

自然景観の保全

多自然工法とは、自然を多く残して工事することで、生きものすみかを守ったり再生したりする工事のことだよ。



希少種の保全活動

耕作放棄地の有効活用

自然ふれあい教室の開催

自然由来の堆肥を作るよ。作った堆肥はブランド米の作付けなどに使用されるんだ。



工場敷地内のビオトープなどの緑化の推進

緑のカーテン推進

エコツーリズム

適切な野生鳥獣対策

遊歩道の整備

まとまった自然のある公園

収穫体験を観光化

くるめでは、梨狩り、ぶどう狩りなどが有名だよ。



農地を利用した環境学習

地場の自然を利用した産業

くるめ特有の自然を生かした産業は、エツ漁ややましお漬などがあるよ。



農業のブランド化や地域の景観の保全など「すみたい、すみつけられる」くるめの地方創生にも頑張っているよ。



田園ゾーン

農作物の地産地消が取組まれ、農業が活性化し市民の豊かな食卓を支えています。



地産地消の日の給食

農地や水路が保全され、洪水の防止や大気の浄化などの農地の多面的機能が発揮されています。

自然に配慮した農業が実践されており、農地が生きものであるふれあっています。



田植えの様子

山地ゾーン

耳納山地をはじめとした、まとまった森林が、多くの生きものを育み、水源などとして保全されています。



紅葉散策

災害防止、水源かん養、大気浄化、気温緩和などの森林機能を発揮し市民から大切にされています。

散策、バードウォッチングなど自然とのふれあいの場が、多くあります。

●自然にやさしい工事って な~に!?



多自然工法の川づくりとは?

5ページの所で見たとように、コンクリートで固められた川は、生きものにとって、すみやすい環境ではありません。そのため、川を工事するとき、できるだけ自然に近い形で工事を行い、生きものたちにとっていい環境を創ってあげる工事のことを多自然川づくりって言うんだよ!!

下の写真の高良川下流(くるめウス横)でも、多自然工法の工事がおこなわれていて、絶滅危惧種っていわれてる希少な生きものが見られるようになったんだ!!

ここからわかる事は、生きものたちは、いい環境があれば、そこに戻ってくるってことだよ!!

みんなも生きものにとってすみやすい環境について考えてみよう!!

高良川下流(くるめウス横)



5ページの答えの一つが、この多自然工法の川づくりに代表される、自然にやさしい工事になるよ。

生きものとの関わりあいを壊さないようにする事が大事なんだ。

今では、絶滅危惧種に選定されている、オヤニラミ(写真左)やアリアケギバチ(写真右)も見られるようになったんだ。



オヤニラミ



アリアケギバチ

4

施策の方向性



これからやっていく方向性について触れていくよ。

1. 3つの目標

「目指す社会」の実現に向け、3つの目標の柱をかかげ、今後、久留米市が取りくむべき施策の方向性を示します。

～生きものの生息環境が守られたまちづくり～

久留米市の豊かな自然を守り、活かし、つなげ、多種多様な野生の生きものたちも暮らせるまちづくりを進めます。

～自然と暮らしがつながる仕組みづくり～

日々の暮らしのなかで、生物多様性を守り・育てる仕組みづくりを進めます。また、自然のめぐみを経済につなげ、地域の活性化に活かします。

～自然を守り、暮らしにつなげる人の育成～

生物多様性の大切さを理解し、久留米市の自然を守り・育み、次世代につなげる人づくりを進めます。

2. 行動施策

「目指す社会」を実現するための具体的な取組みとして、平成32年度を短期目標と定め、3つの目標に基づく18の施策を推進していきます。

生物多様性の危機は、今すぐに行動しなければならない地球環境問題です。そのため、できるところから行動を実践し、多様な施策を進めていく土台をつくります。これにより、今後進めていく施策をより効率的に行います。

目標	施策名	
生きものの生息環境が守られたまちづくり	市街地での生態系の保全	
	自然とのふれあいの場の創出	
	山林の保全、再生	
	生きものの移動等に配慮した施策の推進	
	希少生物の保全	
	外来生物への対応	
	野生鳥獣による影響の緩和	
	田園などの里地里山の保全・再生	
自然と暮らしがつながる仕組みづくり	産業	生物多様性に配慮した農業・農村の振興 生物多様性に配慮した事業活動の促進
	暮らし	生物多様性に配慮した暮らしの推進
		生物多様性に配慮した消費行動の推進
		温暖化緩和策の推進
	循環型社会に向けた取組み	
自然を守り、暮らしにつなげる人の育成	環境学習の開催	
	自然観察会の実施	
	市民団体の活動支援	
	自然とのふれあいや環境保全活動を推進する人材育成の推進	

3. 重点施策

3つの目標の達成にあたり、18施策のうち特に重要なものを久留米市の重点施策として示します。

生きものの生息環境が守られたまちづくり

市街地での生態系の保全

地域の特性に応じた緑化の推進や水辺の創出などにより、市街地にまとまりのある自然を確保します。

まとまりのある自然は、生態系を育て、種の多様性の保全につながります。



外来生物への対応

アライグマやオオキンゲイクなど、人の手によって持ち込まれた生きものを外来生物といいます。

外来生物のなかには、天敵のいない環境で爆発的に数を増やしてしまい、生態系のバランスを崩したり、様々な被害を出すことが懸念されるため、計画的な防除を実施したり、啓発活動などを行い適切に対応します。



自然と暮らしがつながる仕組みづくり

生物多様性に配慮した農業・農村の振興

農地が洪水や土砂崩れの防止などの多面的機能を発揮するための地域活動や、農薬や化学肥料を減らしたり、レンゲ草などの緑肥を作付けするなどの生物多様性に配慮した農業を振興します。



生物多様性に配慮した暮らしの推進

身近にある小さな自然に目を向けたり、いつもの生活を少し見直すことでできる、生物多様性に配慮した取組みを推進します。

自然を守り、暮らしにつなげる人の育成

環境学習の開催

身のまわりの自然や生活に欠かせない自然からのめぐみを再認識するために、環境学習を宮ノ陣クリーンセンターの環境交流プラザ・学校・コミュニティセンター等で行います。



自然観察会の実施

生物多様性の保全と持続可能な利用の重要性が知れわたり、普段の行動に反映されるよう、自然観察会を実施します。

四季を感じながら、山を歩き、川に入り、虫や魚にふれあい、樹木や鳥を観察することで自然を身近なものに感じます。



4. 重点指標

3つの目標の達成にあたり、施策の進行状況を確認するために、4つの重点指標を示します。

目標	指標	年度			
		H29～H31	H32	H33～	H62 (2050年)
生きもの の暮らし を守り つくる	緑の量 (公園・市民の森・保存樹木等の合計面積) 現状 320ha		H32年度までに346ha		自然とふれあい自然と生きるまち くるめ生きものプランの評価・見直し 久留米市環境基本計画 策定 見直し後のくるめ生きものプランの推進 実現
自然と暮らす 仕組 みをつ くり	環境に配慮した農業・農村の振興 (多面的機能の維持に取り組む地域活動面積の割合) 現状65%		H31年度までに75%		
自然を守り、 暮らしを つなげる	生物多様性の理解度 現状 25%		H32年度までに 33%		
自然と積極的に ふれあう市民の 割合	自然と積極的にふれあう市民の割合 現状 %		H32年度までに %		

●見直し計画

短期目標を平成32年度として、18の行動施策や重点指標にもとづき、平成32年度にプランの見直しを行い、平成33年度以降のプランを実施します。

5. 私たちがすぐにでも始めるべき行動

普段の暮らしのなかで、生きものに配慮した取組みをすることができるよ。私たちには、どのようなことができるかな？
私たちって？・・・市民一人ひとりのことだよ。
一人ひとりの行動や考えが、事業者やいろんな機関に影響をあたえるよ。



資源を大切に使う

- ご飯をのこさないように心掛けよう。
- 省エネ(地球温暖化対策)に取組みます。

食べものに感謝して、ご飯をのこさず、食品廃棄物を減らすことは、生態系サービスの無駄遣いをなくし、有効利用を進める大切な取組みです。

また、温暖化が進むと、花が咲く時期や実がなる時期に変化が生まれ、関わりのある鳥や昆虫に影響を与える可能性があります。生きものは関わりあいながら生きているので、この小さな変化が、生きもの同士のつながりに狂いを生むかもしれません。

使わない電気は消す、水は出しっぱなしにしないといった取組みも生きものを保全する上で有効です。



- もったいないを捜そう。
- 3Rにチャレンジしよう。

自然から得られるめぐみは、限りがあります。身の回りで、無駄になっている資源はありませんか？生活のなかにある、「もったいない」を探してみましょう。

ごみの量を減らす(Reduce)・くり返し使う(Reuse)・再び利用する(Recycle)という、資源を大切に使うための行動のことを、頭文字「R」をとって、「3R」といいます。ごみを減らすことは、自然のめぐみを大切に使うことに繋がります。自然への負荷が減らし、将来へ守っていくことにより、生きものの保全に寄与していきます。



R Reduce

リデュース

使う資源や
ごみの量を減らすこと

- つめかえのできる製品を選んで買う
- 必要のない包装は断る
- レジぶくろを断る

など

R Reuse

リユース

ものをくり返し
使うこと

- こわれたものを簡単に捨てずに修理して使う
- いらなくなったものは捨てずに必要な人にゆずる
- マイはしを持ち歩いて使う

など

R Recycle

リサイクル

使い終わったものを
資源として再び利用すること

- 古新聞や古紙を資源回収に出す
- リサイクルボックスでごみを分別する
- リサイクルされた製品を選んで使う

など

環境に配慮した消費者になる

- 生物多様性に配慮した製品であることの認証を受けた製品を優先的に選びます。
- 旬のものや地元産の食材を選んで料理します。

木製品や水産物、農産物で、生物多様性に配慮した持続可能な方法で生産されている製品を認証する取組みが始まっています。

私たちが、買い物をするとき、こうした認証を受けた製品を優先的に選ぶことで、森林の違法伐採や魚の乱獲を防いだり、環境に優しい農業を促進したりすることができます。

また、地産地消は、自然本来の姿です。窒素やリンといった、私たちが生きていくのに必要な物質は限られています。生態系の働きにより循環利用されて命をつないでいます。地産地消が進むと、地域内の健全な物質循環に寄与されるとともに、輸送等に係るエネルギーが抑制され、地球温暖化の緩和にもつながります。



身近な自然や生きものとふれあう

- 自然観察や自然体験の機会を増やします。

私たちの生活は、昔に比べ便利で快適なものになりました。その一方で、便利で快適な生活は多くの生きものを絶滅に追い込んでいます。

しかし、私たちは、生きものが絶滅に瀕している状況や自然とのつながりを目で見ることにはできません。見知らぬ生きものに思いを寄せ、生きものの絶滅が招くものを想像する力を養う必要があります。

そのためには、自然観察や自然体験の機会を増やすなど、将来を担う子どもたちを始めとして、日頃から、身近な自然や生きものと積極的にふれあい、体感することが大切です。



環境美化活動を行う

- 地域の清掃活動などに参加しよう。

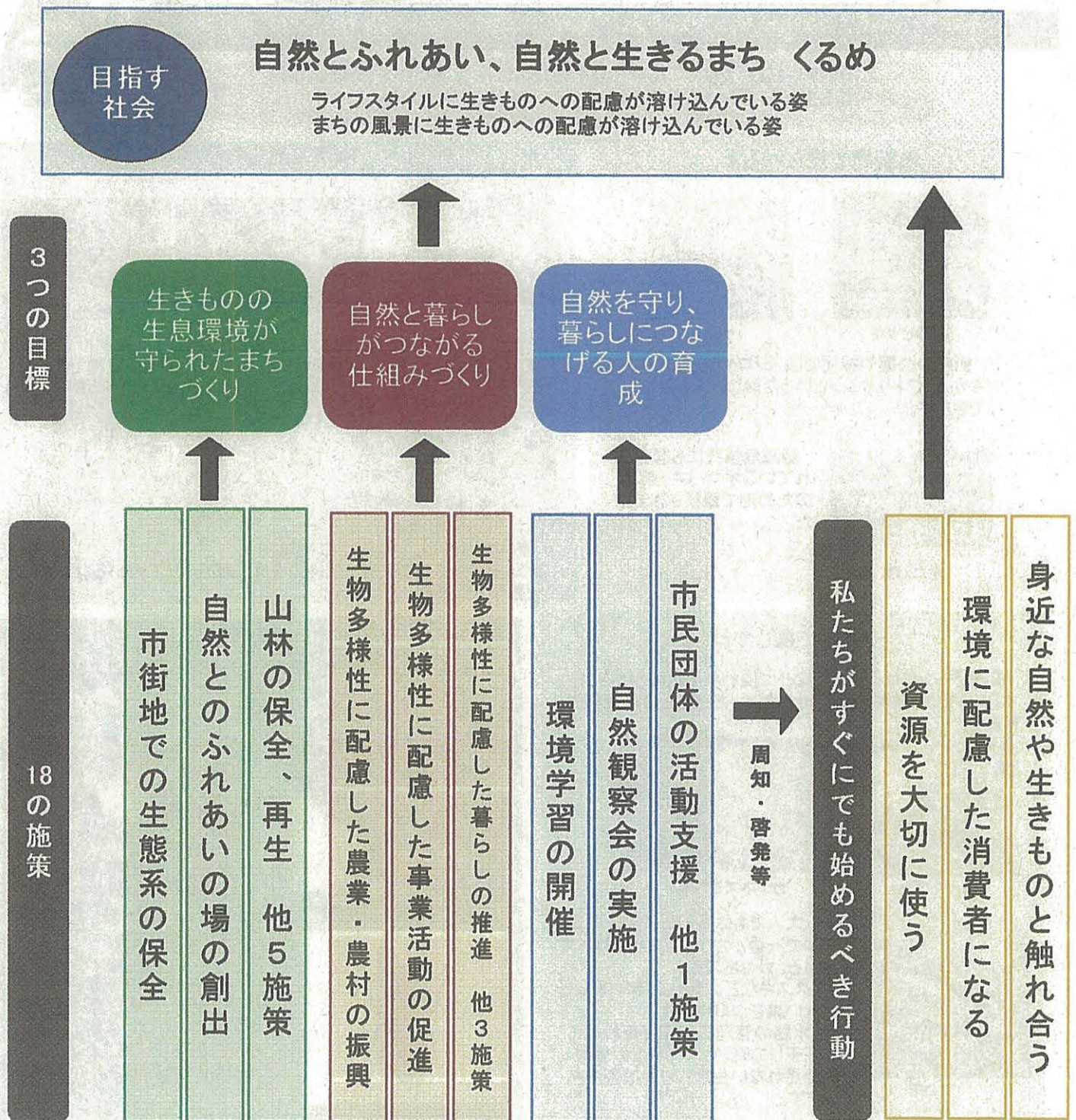
地域の環境を自らの手で守ろうと、久留米市では、様々な環境美化活動が行われています。地域で行われる一斉清掃、企業等による周辺道路のゴミ拾い、筑後川河川敷で行われるノーポイ運動などです。

この他、環境美化ボランティア制度「くるめクリーンパートナー」による年間、約〇〇袋の散乱ごみを収集しています。

これらの活動は、手の届く身近な環境を守り、自然を育ていくことに繋がります。



6. くるめ生きものプランの体系図



教えて!くるっば先生④ ●どんな生きものがあるかな?



自然観察会などでは、こんな生きものたちに出会えるかもしれないよ!
みんなも参加してみよう!!

市街地で見られるよ



ジョウビタキ



アトリ

街中の公園や神社ではメジロやジョウビタキから、アトリやシメといった珍しい鳥も観察できます。



オニバス

絶滅危惧種にも選定されているオニバス。街中のため池で観察されました。

水辺で見られるよ



ニッポンバラタナゴ



アリアケギバチ



ヤマノカミ

筑後川の支流では、希少な魚が観察できます。
有明海の名のつくアリアケギバチは、くもめ近辺の固有種です。



コガモ



マガモ

冬の渡り鳥として知られているカモ。
水が豊かな久留米では、筑後川をはじめとして、いろいろな場所で観察されます。

田園で探してね

田園ゾーンには、農業用などに使われる水路があります。ここでは、流れの速い川とは違った生きものが観察できます。



カヤネズミ



カヤネズミの巣

大人でも体長6cmくらいで、日本で一番小さなネズミと言われている、カヤネズミ。
ススキなどの葉を上手に編んで丸い巣をつくれます。
水路の管理の一環で行われる堀干しの時、ウナギなどの普段は見れない生きものが観察できます。



ウナギ

山地にいるよ

山地は生きものの宝庫です。人の目の届かない山奥で多くの生きものが暮らしています。
運が良ければ観察できるかも。



ニホンザル



ムササビ



オオクワガタ

ニホンザル、ムササビ、イノシシといった生きものが暮らしています。時折、山から里に下りてきて目撃されています。
絶滅危惧種に選定されているオオクワガタも観察されています。

お知らせ



山や川、田園などでいろいろな生きものが観察できるんだね。
みんなは、何種類見たことあるかな?

市では季節にあわせた自然観察会を行っているよ。
参加者の募集は広報くもめやHPでお知らせしています。



山での自然観察



川での自然観察